

改革アジェンダ
001

2020年東京オリンピックにおける ゴルフ競技会場について

2014.10

‘OPEN’ & ‘FAIR’

日本ゴルフ改革会議

目次

はじめに	1
1 2020年東京オリンピックは日本のゴルフ振興の鍵を握る	2
2 ゴルフ競技会場の特殊性	3
3 公益性から見たゴルフ競技会場の是非	4
4 会場選定プロセスへの疑問	5
5 都民のレガシーとなるゴルフ競技会場の条件	6
6 倉本PGA会長も推薦する若洲ゴルフリンクスの素晴らしさ	7
7 若洲ゴルフリンクスの現状評価	9
8 緊急提言 ～若洲を候補に入れて会場選考の見直しを	10
終わりに	11

はじめに

日本ゴルフ改革会議は、日本のゴルフにおける諸問題に対し、改革の処方箋を提案するため今年6月創設されました。

会議参加者は全員がゴルフを心から愛し、日本のゴルフをより良いものにするため、さまざまな分野からボランティアとして参加しております。この素晴らしいスポーツを普及させ、青少年の教育に採り入れることも、われわれの大きな願いの1つであります。

いまさらではありますが、スポーツが公共的なものであるためには、「公共的な言説空間」が不可欠であり、公共性を担保するためには、議論の「公開性」が必要だと思われます。

日本ゴルフ改革会議はこの「公共性の原理」に基づき、第32回オリンピック競技大会(以下、2020年東京オリンピック)のゴルフ競技について考察し、議論を重ねて参りましたが、成功に向け改善が必要な点があるという結論に至りましたので、ここに謹んで報告させていただきます。

1 2020年東京オリンピックは日本のゴルフ振興の鍵を握る

2016年リオデジャネイロオリンピックでゴルフが正式競技となり、2020年東京オリンピックでもゴルフ競技が行われるのは大変喜ばしいことでもあります。近年、日本のゴルフは縮小傾向にありますので、オリンピックのゴルフ競技をぜひともゴルフ振興に役立てたいというのが業界全体の願いでもあります。

しかしながら、現状の2020年東京オリンピックに向けたゴルフ界の動きを見ると、必ずしもそうならないことが懸念されます。たとえば競技会場について選考過程が不透明であり、業界全体の同意がとれているとは言えません。また、今年52年ぶりに日本で開催された世界アマチュアチーム選手権の結果を見ますと、運営、強化の面からも若干の疑問が残ります。

日本ゴルフ改革会議では、チームジャパンとして、業界一丸となってオリンピックを成功させるためには、競技会場についての問題を解決することがその第一歩だと考えますので、この件に関しまして現状の説明を行うと共に、解決に向けていくつかの提言をさせていただく次第です。

2 ゴルフ競技会場の特殊性

立候補ファイルにある開催計画書によると、基本的に選手村から半径 8 キロメートルの距離にある競技会場で各競技が計画されています。例外は射撃（陸上自衛隊朝霞訓練場）、近代 5 種/フェンシング（武蔵野の森総合スポーツ施設）、近代 5 種/水泳・馬術・ランニング・射撃（東京スタジアム）、自転車競技（武蔵の森公園）、サッカーの予選会場（札幌ドーム、宮城スタジアム、埼玉スタジアム、横浜国際総合競技場）、ゴルフ（霞ヶ関カンツリー倶楽部）ですが、このうち本大会が東京都以外の地域で開催される競技はゴルフと射撃です。さらに、会場が公共施設と呼ぶことができないのは唯一、ゴルフ会場の霞ヶ関カンツリー倶楽部のみです。このように、所在地が東京都になく、しかもプライベートクラブで開催されるゴルフ競技は特殊なケースと言わざるを得ません。

3 公益性から見たゴルフ競技会場の是非

霞ヶ関カンツリー倶楽部は日本のゴルフの歴史を創ってきた素晴らしいゴルフ場であることに間違いありませんが、オリンピックの会場としてはどうでしょうか。一般のゴルファーがプレーできないプライベートクラブでオリンピックが開催されることは、公益性という観点から見ると疑問が残ります。開催後には「オリンピックコース」として価値が向上することが予想されますが、その利益を享受できるのはメンバーだけです。計画書には仮設/会場使用料として9億円の予算が計上されていますが、大会組織委員会から支出されるこの予算の使い道が明確になっていません。もし仮設/会場使用料以外の用途にこの予算が使われればそれは、私的財産の資産価値向上にオリンピック予算が使われるということです。

これは公益性のみならず、ゴルフにおける「フェアの精神」に反するものであり、オリンピック憲章に明記されている「遺産（レガシー）」の考え方にもそぐわないものです。

4 会場選定プロセスへの疑問

霞ヶ関カントリー倶楽部が 2020 年東京オリンピックのゴルフ競技会場に内定したのは 2012 年 5 月のことです。2016 年に向けての招致活動では東京都が有する若洲ゴルフリンクスがゴルフ会場としてリストアップされていましたが、2012 年 4 月「2020 東京招致委員会」の第 1 回会議において、コース選定の条件として①国際試合の実績のあるコース（7,000 ヤード超）、②36 ホール以上保有するコース、③晴海から 50 キロ以内、または 1 時間以内に立地しているコース、④1 日 15,000～20,000 人のギャラリーを安全に収容できる能力のあるコース、の 4 つが示され、①②④の条件を満たさないとして若洲ゴルフリンクスが候補から外されました。

その翌月の招致委員会第 2 回会議において霞ヶ関に決定したわけですが、これら 2 回にわたって開催された委員会会議について詳細な議事録がなく、その選定プロセスおよび選定理由の説明が不十分であります。

霞ヶ関カントリー倶楽部は晴海から 1 時間では到着できませんし、内陸にあるため、開催時期の 8 月にはプレーに支障をきたすほどの暑さに見舞われます。この 2 つの要素だけを鑑みても、霞ヶ関での開催には疑問が残りますし、都民の財産である若洲が簡単に候補から外されたのは不自然としか言いようがありません。

5 都民のレガシーとなるゴルフ競技会場の条件

ここで原点に立ち返ってオリンピックの競技会場の条件を考えてみたいと思います。オリンピック憲章には「全ての競技はオリンピック競技大会の開催都市で行われなければならない」と明記されていますし、また、近年国際オリンピック委員会（IOC）が最も力を入れているのはレガシー（遺産）というテーマに他ならず、オリンピック憲章には「オリンピック競技大会のよい遺産（レガシー）を、開催国と開催都市に残すことを推進すること。」とあります。

この見地に立つと、所在地が東京ではなく、しかも一般ゴルファーは基本的にプレーできないプライベートクラブを会場にすることには大いなる疑問が残ります。

また、ゴルフ人口が減少しつつあるなかで、2020年東京オリンピックを新たなゴルフ人口創出に役立てるためには、会場へのアクセスの良さは必須条件だと考えられます。霞ヶ関で行えば既存のゴルフファンが集まることが予想されますが、それでは現在国内で行われているトーナメントと変わりがありません。一方、アクセス抜群の若洲なら初めてゴルフトーナメントを観るギャラリーが多数足を運ぶでしょうし、そのことがゴルフというスポーツに対して興味を持ったり、認識を変えるきっかけになることでしょう。

また、オリンピック後の競技会場がオリンピックコースとしてゴルファーにとって憧れのコースになり、そこでゴルフを楽しむ人々も増えればそれはまさに「レガシー」という考え方に沿ったものです。それには、誰でもプレーできるコースが会場でなければならないはずで

6 倉本 PGA 会長も推薦する若洲ゴルフリンクスの素晴らしさ

2016年の誘致活動においては、ゴルフの会場は若洲で計画されていました。それが2020年の招致活動では候補から外され、霞ヶ関に変更されたわけですが、ここでは、果たして若洲はオリンピックの競技会場とはなり得ないのかを検証したいと思います。

若洲ゴルフリンクスは1990年、世界ゴルフ殿堂入りを果たしている岡本綾子プロ、川田太三氏の設計監修により都民のためのゴルフ場として誕生しました。開場24年を迎えた現在は開場時に植えた木が大きく育ち、地面も風雨に晒されて自然の凹凸を描き、非常に趣きのあるコースになっているといえます。距離は6,906ヤード(パー72)と7,000ヤードには及びませんが、ティグラウンドの後方に空きスペースがあるホールも多く拡張は十分可能です。

若洲では過去、男子ツアーのポカリスエットよみうりオープン(1996)、女子ツアーのイエローハット東京レディースオープンゴルフ(1996~1998)が開催された実績があり、それに加え、日本プロゴルフ協会(PGA)の倉本昌弘会長が2020年東京オリンピックのゴルフ競技会場としてふさわしいと推薦しています。

倉本PGA会長は若洲でオリンピックを行う意義を次のように提唱しています。

- ① 東京都が所有し、東京都に所在するコースであり、東京オリンピックが掲げる「コンパクトなオリンピック」にふさわしいコースである。
- ② 海と都市が融合した景観は世界に類を見ない絶景である。
- ③ ゴミの上を埋め立ててコースを作ったということから、エコ、環境面で世界にアピールができる。
- ④ 設計監修者は岡本綾子という世界殿堂入りをした選手であり、世界のゴルファーや関係者の誰もが知っている。
- ⑤ 選手村やプレスセンターの建設が予定されているエリアから至近距離であるということに加え、高級ホテルも近くにあり選手の要求を満たせる。
- ⑥ 最大の利点は、コース改造を含め関連施設を作れば、恒久的に都民やゴルフファンが使うことができる。これが名門コースでありプライベートコースとして有名な霞ヶ関カンツリー倶楽部に国の予算を使った場合、都民やゴルフファンに公平に開放される可能性が極めて低く、還元されるとは思えない。

識者として知られ、国内ツアーで永久シードを持つ倉本 PGA 会長の指摘は重く、競技会場については再検討すべきだと考えます。ゴルフトーナメントの舞台としての資質を持ち合わせているだけでなく、三方を海に囲まれ、東京ディズニーランドや東京タワー、東京ゲートブリッジが視界に入る独特のロケーションで、内外に「東京」をアピールできるのが若洲ゴルフリンクスです。海に面するがゆえに、つねに吹く風の手ハザードがプレーに深みを与えると共に、8月の炎天下でも過ごしやすいという好条件も加わります。もとよりアクセスの良さは抜群ですから、この時期に屋外のスポーツイベントを開催するには適しているといえるでしょう。練習場は改善の必要がありますが、敷地に隣接するように東京都が保有する広大な土地があり、この場所を使えば問題は解決します。

7 若洲ゴルフリンクスの現状評価

当会議では今回の提言を行うにあたり、委員有志で2014年8月に若洲ゴルフリンクスの視察を行い、「競技運営面での評価」「オリンピック会場としての評価」「東京らしさをアピールできるかどうかの評価」という3つの視点から評価を試みました。

「競技運営面での評価」については、国際大会開催の実績がなく、この点に対する評価はゼロでした。コース難易度についても、風のハザードはあるものの、現状で世界トップアスリートの最高の技術を引き出すことのできるコースレイアウトであると評価する委員はいませんでした。ただ開場より24年の年月を経て、地面が自然に陥没して豊かなアンジュレーションを描いている様子に興味を感じる委員も多く、トーナメントコースとして一定の資質は備えているという結論になりました。練習場については現状厳しいものの、過去のトーナメントで実績があるように、隣の空き地を利用すれば問題がないという意見で一致しました。

中継やメディア対応に関しては、TVコンパウンド敷地は隣接エリアを使用すれば問題なし、電力やSNS環境も問題なく、TVやメディアクルーの宿泊施設が近く、なによりもプレスセンターが至近距離にあるため、コース内に独自のプレス用施設を作る必要がないことが高く評価されました。

「オリンピック会場としての評価」については、都心からのアクセスが抜群であり、ゴルフをしない層を含む大勢のギャラリーを集める可能性が高いこと、コース内18番ホールグリーン周りに大きなギャラリースタンドを建てるスペースがあること、アップダウンがなく、ホールとホール間のスペースがあるのでギャラリーが観戦しやすいこと、などが評価され、新しいゴルフファンを創出できるオリンピックのゴルフ競技になる大きな期待が寄せられました。

そして「東京らしさをアピールできるかどうかの評価」については、「フェアウェイから広がる海と建ち並ぶ高層ビル群を眺めることができ、東京の新しいシンボルであるスカイツリーや東京ゲートブリッジも視界に入るこのゴルフ場は他にはなく、東京の素晴らしさをアピールする上でこれ以上のゴルフ場はない」と最高の評価でした。

8 緊急提言 ～若洲を候補に入れて会場選考の見直しを

以上述べてきたことから、われわれ日本ゴルフ改革会議は 2020 年東京オリンピックのゴルフ競技会場について、再検討の必要があると考えます。よって、東京招致委員会会議を招集した公益財団法人日本ゴルフ協会に対して、2020 年の招致活動において、会場候補が若洲ゴルフリンクスから霞ヶ関カンツリー倶楽部に変更された経緯と理由、および 9 億円の会場予算の明細についての説明、それに伴い 2 回にわたる東京招致委員会会議の詳細な議事録の開示を求めるものです。期限に関しましては、IOC による正式決定が 2015 年 2 月ということを鑑み、2014 年 11 月中とさせていただきます

また東京都議会をはじめとする関係各所には、都民の財産である若洲ゴルフリンクスをオリンピック会場の候補としていま一度ご検討いただけるよう、お力添えをお願いする次第です。この 11 月には IGF（国際ゴルフ連盟）の担当者が霞ヶ関カンツリー倶楽部に視察に来る予定になっているそうです。ぜひとも若洲ゴルフリンクスも視察していただき、東京に素晴らしいコースがあることを認識してもらいたいというのがわれわれの願いです。

終わりに

2020年東京オリンピックでゴルフ競技が開催されることは、日本のゴルフを盛り上げる千載一遇のチャンスです。これを機に全国の少年少女にゴルフに興味を持ってもらうことが、ゴルフ人口増加の起爆剤になるでしょうし、オリンピックを目標に新たな強化メニューのもとで研鑽を積むことが、日本人選手のレベルアップにつながると思われます。

にもかかわらず、運営や強化の面でこれまでのやり方を踏襲し、名門コースで予定調和的に開催されることは、せっかくのチャンスを生かし切れない可能性を大いに含みます。

ここはぜひ、東京らしさ、日本らしさに満ち溢れたパブリックコースで、既存の考えにとらわれない新しいゴルフ競技を実施することも選択肢に入れ、再検討をすることが日本のゴルフ界全体の利益につながるのではないのでしょうか。

2016年リオデジャネイロオリンピックのゴルフ会場は当初決定していたプライベートコースから会場変更され、現在建設中のようです。いまからでも遅くありません。2020年東京オリンピックが本当の意味で成功し国民のレガシーになるために、なにとぞご検討のほど、よろしくお願いいたします。